

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2190800017 | | |
| 法人名 | 株式会社 平安 | | |
| 事業所名 | グループホームききょう | | |
| 所在地 | 岐阜県山県市東深瀬505-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年10月11日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年5月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_kani=true&JizyosyoCd=2190800017-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 令和5年11月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自分らしく自分のペースで生活ができる施設をスタッフはめざしています。環境の整備や暖かい雰囲気施設の施設づくりを行う事で利用者さまの尊厳を尊重し穏やかで安全、安心に快適に過ごしていただき、自分たちもここで生活したいと思えるような空間を作りだしていきます。
季節感を感じていただけるようなイベントやご家族様、地域の方々のイベント参加、介護予防サロンの実施、登山等のアクティビティや学生ボランティアの募集など地域とのふれあいを大切に今後も運営して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の発案により、行政と連携を図りながら住民参加型の介護予防サロンが開催されている。また、地域の子供向けのピアノ教室、事業所主体の祭りや登山活動等、地域とのふれあいを大切にしながら取り組んでいる。管理者は、職員にとって何が必要かをしっかり理解し、職員全体を見守り、働きやすい職場環境作りに努めている。職員の表情は明るく、その雰囲気が利用者にも伝わり、ホーム全体が和やかで笑顔が多い。看護師や理学療法士による体調管理やリハビリを充実させ、薬剤師の薬の管理指導等も家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|--|
| 43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 53 職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設の理念の他に今年目標を掲げ職員一同取り組んでいます。定期的なミーティングを実施し理念に沿った行動、サービスの提供ができるように心がけています。 | 法人理念及び今年目標「初志貫徹」を立て、事業所独自にwhat・サプライズ(驚きと感動を)を玄関に掲げている。利用者は地域の人達と関わりながら、わくわく感と喜びを感じ生き生きとした暮らしができるようにとの願いを込め、支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 感染面で心配ではありますが可能な範囲でイベント等を開催し交流を図っています。感染状況を見て今後も外出や地域との関わりを増やしていきたいです。 | コロナ禍でも、工夫を重ね積極的に地域交流をしている。事業所の祭りを開催する際には、職員が一軒一軒回ってPRし、キッチンカー2台も用意、祭りを盛り上げた。月2回の介護予防サロンでは料理教室やエクササイズ、子供向けのイベントや介護相談も行っている。 | |
| 3 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 対面での開催をメインに感染状況に応じてオンラインを併用したハイブリッド開催をしています。継続的に開催でき地域の方々との意見交換に取り組んでいます。 | 運営推進会議は3か月毎に対面やオンラインなど併用し開催している。参加者の意見や活動報告の議事録を行政に提出しているが、利用者の家族にも伝わる工夫がなされると、家族の理解が一層深まると考える。 | |
| 4 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市役所健康介護課職員と定期的に面会や連絡を取り状況報告や情報共有を実施しています。 | 困難事例や問題がある時は、直接、市に出向いたり電話やメールでも相談している。災害時には福祉避難所として登録されている。また、行政の補助金で陰圧機を導入している。2年目に入った「介護予防サロン」の相談など、協力関係を築いている。 | |
| 5 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 前回のアドバイスを受け身体拘束委員会を立ち上げ話し合い、研修を行ったりしています。利用者様の日常の行動や動きなど職員間で共有し安全に過ごしてもらえるよう定期的にサービスの見直しを行うよう努めています。 | 法人施設合同で3か月毎に、身体拘束防止委員会を開催している。外部の講師を招いて身体拘束適正化に関する研修も行い、議事録も整理されているが、全職員への周知徹底は不十分な点も見られる。身体拘束適正化のための指針を整備し、運営規定に定めておく必要がある。 | 前回の課題であった身体拘束適正化委員会の実施、議事録等の整備はなされていた。今後は、さらに指針を整備し、全職員への周知徹底に取り組まれることを期待したい。 |
| 6 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 上記と同様、日常より常に注意喚起し虐待の防止に努めている。 | 身体拘束適正化委員会と虐待防止委員会は、同日に合同開催しているが、それぞれの検討内容や議事録、職員への周知徹底に不十分な点が見られる。 | 身体拘束適正化委員会と虐待防止委員会を一緒に開催することは問題ないが、開催記録は、それぞれの委員会別に残すことが望ましい。また、全職員への周知徹底及び運営規定にも「虐待防止のための措置に関する事項」として、追加に期待したい。 |

岐阜県 グループホームききょう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修にて日常生活支援や成年後見制度について学んでいる。利用者個々の尊厳を大切にできるよう職員で共有している。 | | |
| 8 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 施設入所前にケアマネジャー、フロアリーダーと面談を行い利用者、家族の不安や疑問点、要望等を伺い施設内や料金等の説明を行っている。 | | |
| 9 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 弊社の公式LINEアカウントやインスタグラムなどSNSサイトを開設し以前よりもご利用者様との繋がりを感じていただけようになっています。ホームページを通じての情報発信も行っています。 | 家族への書面による便りは廃止し、インスタグラム等のSNSやホームページで情報発信をしている。今のところ、家族も対応できているが、コロナ禍で様々な制限もあった事から、さらなる情報発信に工夫が待たれる。家族からは面会時や電話などで要望や意見を聞いている。 | |
| 10 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回ミーティングやモニタリングを行い各職員が意見を述べ問題提起し解決策を話し合い良いケアができるよう努めています。 | 管理者は、朝夕の申し送りで出た意見を速やかに取り入れている。今までも食事形態の提案や、リハビリパンツの大きさについても意見があり、実践に活かされている。個別面談は社員については年2回、パート職員も個別に面談を行っている。 | |
| 11 | (9) | ○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている | 年2回の評価、賞与の制度と年1回に人事考課制度を用い職員1人1人がやりがいを持って働くことができる環境作りに努めています。また年2回全職員でのミーティングを行いスタッフ表彰式、経営方針の発表などを行っています。 | 社員は年2回の人事評価がある。職員の勤務状況を把握し、賞与・給与に反映させている。有給休暇や休憩時間、休憩場所も確保され、飲み物まで用意されている。全職員が会員制のホテルや食事利用ができるなど、福利厚生が充実している。 | |
| 12 | (10) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 介護未経験の職員でも安心して働けるための教育制度や月1回の介護研修(外部講師)資格取得や法人外研修費の補助の制度を設けている | 資格取得や外部研修費の補助制度がある。3か月未満の職員はベテラン職員がマニュアル等を教え、その後の実践は教育係が指導している。勤続年数の長い職員は、リーダー研修やオムツケアなど、スマホを使ったZOOMでの自宅研修も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | オンラインで他の施設の介護者と話し合える機会を設けたり、他施設見学の機会を設けている。勉強会案内など全職員に配信し平等に参加できる機会を与えている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 14 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人と向き合い、個性や今までの暮らしぶりなど聞き、自宅にいるような介護をいつも考えその人らしい生き方をしていただけるように支援しています。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 15 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様一人一人時間をかけて昔話をしながらその人の人生観を感じ、よく観察しその人に合った支援を皆で共有し安心して生活してもらえよう行っている。 | 職員は、利用者1人ひとりに、時間をかけて昔話をしたり、利用者同士の会話の中で個々の思いを把握するなど、新たな情報は職員間で共有している。意思疎通の困難な利用者は、表情や仕草から思いを読みとったり、家族から情報を得て暮らしの中に活かしている。 | |
| 16 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスを行った結果で皆で意見交換しケアについて再度検討し、介護計画を立てて、サービス提供に役立てている。 | 前回の目標達成計画により、家族と直接話し合えるサービス担当者会議は増えている。ケアマネジャーが介護記録やモニタリング結果、看護師や理学療法士の意見を参考に、会議の内容を踏まえて計画を立てている。 | |
| 17 | (13) | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日朝礼夕礼を開催し引継ぎを行う中でサービスの見直しを行う為、新たな気づきを共有するよう安心して一日過ごしてもらおうにしています。 | 職員は、個別の記録の他に、日々の利用者との関わりの中から得た新たな情報はメモに残し、職員間で共有している。管理者は職員のメモから必要な文面を書き出し、介護計画の見直しや、実践に活かしている。これらの情報は全職員で共有している。 | |
| 18 | (14) | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様全員、サービスの提供内容が違うので一人一人に寄り添ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。 | 家族との外出時に、事業所の車で送迎したり、病院受診の際に、家族の都合がつかない場合は、職員が受診同行をするなど、一人ひとりに寄り添った柔軟なサービスの提供に心掛けている。 | |

岐阜県 グループホームききょう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 介護相談員の受け入れはまだしてないのですが、利用者様の安心安全にその人らしい生活が続けていけるよう支援したり他の施設の職員が相談したり話し相手を行うことで生活にメリハリをつけて楽しんで過ごしてもらえるよう努めています。 | | |
| 20 | (15) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的に主治医の診察を受診し状態の把握をお願いしています、異常時は診察が適切に受けられるよう協力していただいています。本人やご家族にも安心されています。 | 協力医は4か所あり、9人中6人がかかりつけ医として選択し、定期的に往診を受けている。外部の医院や専門医への受診は基本家族が付き添っている。職員として看護師・理学療法士の配置があり、薬剤師による服薬指導も受けている。訪問歯科診療も受けることができる。 | |
| 21 | (16) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | ケアマネジャーが病院の相談員と定期的に連絡を取り、利用者様の状態把握に努め、退院後も安心して生活出来るよう支援している | 入院時は管理者が付き添い、日々、ケアマネジャーと共に病院の相談員と連絡を取り合っている。入院後、2か月までは部屋代は必要となるが、居室は空けている。転院が必要な場合もスムーズにできるように病院と連携し、家族の安心に繋げている。 | |
| 22 | (17) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所前より家族から終末期、看取り期に関する意向を伺い、事業所での支援の方法、地域の医療機関や施設などでの支援も説明します。本人家族の意向をスタッフに共有しチームでの支援に取り組んでいます。 | 契約時に重度化や終末期について、事業所の支援方法を説明し家族の同意を得ている。本人と家族の意向、主治医の判断を基に連携しながら、安心と納得の得られる最期を迎えられるよう体制を整えている。移転が必要な場合も支援している。 | |
| 23 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の連絡マニュアルを作成し緊急時に備えています。また、応急手当や救急要請時の対応について消防署に依頼し研修をおこないました。 | | |
| 24 | (18) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の方を呼び避難訓練を定期的に行っており、いざという時に備えています。緊急連絡簿は全員に配布して速やかに連絡が取れるよう対応しています。 | 年2回消防署の協力を得て、避難訓練が行われている。事業所に近い職員の連絡網も整備されている。過去には水害経験もあった事から、同法人の隣接する施設に移動、垂直避難を考えている。福祉避難所としても、更なる地域との協力関係を築くことを検討している。 | 災害訓練の中で、水害訓練がまだ実施されておらず、隣接する施設での垂直避難訓練の実施が望まれる。また、運営推進会議において、地域住民の協力が得られるよう働きかけが期待される。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 25 | (19) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 毎日の生活の中で馴れ合いになることがないよう利用者様の人格や尊厳を大切にしています。 なるべく一人一人の利用者様に寄り添いながら、丁寧な対応をするように心掛けています。 | 職員は、常に本人の気持ちを優先し、さりげない介助で、自分の尊厳が守られていると利用者が感じられるような支援を心がけている。また、職員から利用者への「ありがとう。助かります。」の声かけを習慣化し、常に人生の先輩を敬う心で接している。 | |
| 26 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中でご本人が希望や思いを伝えられる環境づくりを目指しています。利用者様の少しの変化に気づき、思ってみえる事があれば見つけ出し、職員間で話し合い希望に添えるよう働きかけ、自己決定ができるようにしています。 | | |
| 27 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人の性格や生活スタイルに合わせ自分らしく自分のペースで生活が送れるよう支援しています。 | | |
| 28 | (20) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ホットプレートなどを用意してで、利用者様が作る所から参加して楽しんで頂ける機会を設けています。 食後テーブルを拭きやコップ拭きなど利用者様が出来るお手伝いをして頂いています。 | 副食は同法人運営の配食サービスを利用して、主食、汁物、デザート等の提供等は職員が手作りしている。利用者も一緒におやつ作りをしたり、「ゆとりのベランダモーニング」と称して、ベランダで食べるなど気分転換を図っている。布巾たたみや後片付けは、できる利用者が行っている。 | |
| 29 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 配食業者から栄養バランスのとれた食事が毎日届き利用者様に提供しています。季節の物や、利用者様の希望に添い職員が作ったり、一緒に作って食べていただく事もあります。水分補給はこまめに行い、夏場などは好きな時に自由にお茶を飲んで頂けるような工夫をしています。 | | |
| 30 | (21) | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアはなるべく毎食後行っていただけるように、自立の方には声掛けを行っています。 介助の必要な方は職員が介助しながら口腔内の清潔保持に努めています。 | 毎食後、口腔ケアを行っている。自立している人は歯磨きや入れ歯を洗浄し、職員が点検している。全職員が口腔衛生の必要性を研修で学んでいる。今年11月から訪問歯科診療が入る予定である。 | |

岐阜県 グループホームききょう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | トイレで座位保持できる方は皆さんトイレで排泄されます。排泄時間や状態を記録し、その方に合ったタイミングで声掛けやトイレ誘導を行っています。 | | |
| 32 | | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴日は決まっていますが、落ち着いてゆっくり入浴をしていただけるよう、最小限のスタッフでコミュニケーションをとりながら入浴支援をしています。リフトも設置されており、その方に合った入浴方法で安全に入らせていただいています。 | | |
| 33 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 睡眠センサーを導入し睡眠の質の向上に努めています。タブレットで睡眠状態や、心拍数の確認ができ、そのデータをもとに他職種と連携しながら睡眠や排泄状況のアプローチを行っています。日中は利用者様に合った時間で体調に応じて休息して頂きます。 | | |
| 34 | (22) | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の管理は薬剤師、看護師が行っており、服薬介助は介護スタッフがいきます。間違いがないよう、スタッフ同士でダブルチェックを行い、再度利用者様の前でも名前などの確認を行っています。新しい薬の服用が開始されたときは症状の変化など記録しスタッフが共有するようにしています。 | 月1回薬剤師が訪問し、職員に服薬の説明を行っている。服薬の際には名前の確認等、職員でダブルチェックしている。処方内容に変更があった時は、表情や活動の抑制、食欲低下、便秘・下痢、周辺症状の誘発等の変化を記録し、管理者や看護師を通して主治医に報告をしている。 | |
| 35 | (23) | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本を読む方、パズルに取り組む方、一人一人の利用者様が好きなこととして過ごしていただいています。また洗濯たたみなどのお手伝いもしていただき、役に立つ喜びも感じて頂けるよう支援しています。 | 洗濯物たたみやテーブル拭きなど、できることを本人が決めて行っている。職員は、役立つ喜びを利用者が実感できるよう「ありがとう。助かります。」等、感謝の言葉かけをしている。利用者が得意な編み物、新聞や雑誌を見るなど、好きなことで気分転換ができるよう支援をしている。 | |
| 36 | (24) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年に一度地域の方もお誘いしてお祭りを開催しています。地域の方や子ども達、ご家族様と楽しい時間を過ごしていただけます。外出はご家族様とのお出かけや外食など希望があれば送迎のお手伝いをさせていただきます。感染状況に応じ、予防対策を講じた上でドライブ等外出しています。 | コロナ感染拡大状況を見ながら、ドライブやいちご狩り、馴染みの場所へラーメンを食べに行くこともある。喫茶店や外食の希望があれば、家族の協力を得て、送迎も行っている。事業所主催の祭りには、家族や近隣の子供たちの参加があり、交流している。 | |

岐阜県 グループホームききょう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人やご家族の希望に沿って買い物や移動販売でのお買い物をさせていただいています。ご本人に常にお金を持っていただくことは難しいですが、ご家族と外食に行ったり、買い物をしたりと楽しい時間を過ごしていただけるように必要に応じてサポートさせて頂きたいと思っています。 | | |
| 38 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様の希望があれば対応しています。ご家族様からラインでお孫さんなどの写真を送っていただけるようにしています。年賀状などは希望をお聞きして対応しています。 | | |
| 39 | (25) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 心地よい空間で過ごしていただけるよう日中はカーテンを開け陽の光が入るようにしています。夜間は不快なく休んでいただけるよう小さな常夜灯を点けています。共有スペースにはスタッフと利用者様で作成した作品を展示し季節感を感じていただけるように工夫しています。 | 明るいリビングには大型テレビが置かれ、ゆったりとしたソファや畳スペースがあり、利用者個々に居心地の良い場所ができています。共同で作った季節感あふれる作品も展示されている。リビングだけでなく、トイレや浴室、共用空間はどこも掃除が行き届いており、清潔感がある。 | |
| 40 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う利用者様同士で楽しくコミュニケーションを取っていただけるよう座っていただく席は工夫しています。ゆっくりしたいときや静かに過ごしたい時は共有スペースの端にあるソファで過ごしていただけるようにしています。 | | |
| 41 | | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 木製の表札を入口に付け分かりやすいようにしています。十分な広さもあり希望があればご家族様にお泊まりいただくこともできます。ご家族の写真やプレゼントなどを飾り、心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。 | | |
| 42 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下やトイレには手すりを設置し安全に移動できるようにしています。共有スペースでは座っていただく場所を工夫し、車いすや歩行器でも利用者様同士が接触することなく安全に自由に移動できるようにしています。 | | |